令和７年度
自己点検・評価報告書

令和８年３月３１日現在

学校法人大原学園
大阪ホテル鉄道＆ブライダルビューティー専門学校

（令和８年７月２５日作成）

目　　次

基準１　教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント .. 1

1-1　教育理念、目的及び目標の設定等 1
1-2　職業教育のマネジメント体制の整備 2

基準２　教育課程、教育の実施、学修成果 3

2-1　教育課程の編成と授業科目 3
2-2　教育課程の実施 5
2-3　単位・卒業認定 7
2-4　学修成果目標の達成状況 8

基準３　学生の受入れ、学生支援 10

3-1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理 10
3-2　多様な学生に対する修学支援 11
3-3　学生生活に関する支援 12
3-4　学生の自主的な学習等の促進に対する支援 13

基準４　教員・教育実施組織 15

4-1　教員の配置、募集、採用 15
4-2　教員の組織編制等 16
4-3　教員の資質の向上 17

基準５　教育環境 18

5-1　教育環境の整備点検、改善等 18
5-2　安全対策、防災組織 19

基準６　教育活動の基盤と情報の公表 20

6-1　中期事業計画と財務基盤 20
6-2　学校運営 21
6-3　社会からの理解と情報の公表 22

自己評定（達成度）について

＜３段階＞
３：基準を満たしており、特筆すべき取組を行っている
２：概ね基準を満たしている
１：基準を満たしておらず改善が必要

基準１　教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント

1-1　教育理念、目的及び目標の設定等

自己評定（達成度）
2

参照資料
各種書籍、大原学園ホームページ、中期計画、学則、コースガイダンス資料等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
1-1-1　教育理念等を踏まえ、当該専門学校として、目的及び目標を設定し、学科（コースを設置している場合はコースごと）ごとに育成する人材像を明確にしていること。	①当該専門学校の教育理念を踏まえた目的、目標が適切な決定過程により設定されているか ②設置している課程（学科、コースを設置している場合はコースごと）ごとに目的、目標、育成人材像が具体的に示されているか ③当該専門学校の教育理念、目的、目標と学科等ごとの目的等との関連性が明確になっているか ④また、入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、卒業認定方針との関連性が明確になっているか ⑤教職員、学生、社会に対して教育理念等が十分に周知・公表されているか	学園の教育理念、目的、目標、育成人材像が具体的な言葉で明文化されており、「就職」と「資格取得」において一定の成果を残し、有為な産業人を育成することができている。 全国に多数の学校を設置している法人であるが、教育理念などは大原学園ホームページなどで広く周知・公表されており、全教職員に浸透している。	就職実績及び資格取得実績のさらなる向上を図るとともに、実務教育の充実に向けて、社会の動向を的確に見極め、ニーズの調査・分析をふまえた事業計画を組んでいる。	目まぐるしく変化する教育内容へのニーズをよりスピーディーに調査・分析し、教育に反映させる柔軟な体制強化を進める必要がある。

1-2　職業教育のマネジメント体制の整備

自己評定（達成度）
2

参照資料
事業計画書、運営会議議事録

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
1-2-1　職業教育を推進（教育の企画･設計･運用、検証及び改善･向上等）するために必要なマネジメント体制（以下「職業教育のマネジメント体制」という。）を整備し、有効に機能していること。	①当該専門学校の目的を実現するために、学校内に具体的に職業教育を推進するための組織体制を整備しているか ②職業教育のマネジメント体制は有効に機能しているか	校長を中心とした運営体制のもと、運営会議、学科会議、教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会等を設置し、教育課程の企画・運営・改善を組織的に行っている。また、資格取得状況や就職実績、学生アンケート等を活用し、教育活動の検証と改善に取り組んでいる。	教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会を通じて、業界ニーズや外部からの意見を教育内容に反映する体制が整備されている。 一方で、社会や業界の変化に対応し、教育内容へより迅速に反映できる仕組みの強化が必要である。	企業・業界との連携をさらに強化し、教育課程編成委員会等で得られた意見を迅速に教育課程へ反映する。 また、教育成果の分析と情報共有を充実させ、継続的な教育の質の向上を図る。

基準２　教育課程、教育の実施、学修成果

2-1　教育課程の編成と授業科目

自己評定（達成度）
2

参照資料
教育課程編成員会討議資料・議事録

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1　学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成･実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的･段階的に配置した教育課程を編成していること。	①教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ②教育課程編成・実施方針に基づき、系統性･段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ③当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	①策定している。 ディプロマポリシーに沿い、入社後の戦力として活躍できる人材を輩出するための教育課程の編成や実施方針の策定を行っている。 ②体系的に編成している。２年間を４つの学期に分け、体系的な指導を行っている。 ③明確になっている。	現状としてはうまく運営しており、学生は社会ニーズに対応した知識や技術を習得し就職している。 より多くの情報収集を行うことが課題である。	以下に示していることと重複するが、教育課程編成委員会やその他の手法を通じて、さらに幅広い内容の情報を収集し教育課程を更新していきたい。
2-1-2　教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年２回以上開催していること。 【注）職業実践専門課程】	①職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ②上記委員会を年 2 回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	①教育課程編成委員会の設置および年２回の開催している。 産業界などからの意見を教育カリキュラムに反映するスキームがある。 ②機能させている。8 月 11 月に会議を開催し、12 月～1 月に行政へと変更の意向がある場合には提出を行っている。	①認定を受けている学科については、委員を招聘してタイムリーな情報を教育課程に反映できている。 多角化・多様化している現状からも情報収集量をより増やしていきたい。	委員から頂戴する意見は口頭のみならず、具体的な教育ツールや企業発信の情報を提供して貰うことで更なる伸長が図れる。 また、産業界に働きかけて委員招聘分野の拡大を進めていきたい。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3　外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を 300 時間以上開設していること。 【注)外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	①外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を 300 時間以上開設しているか ②該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	①一部学科においては外国人留学生比率が 50%超となっており、認定課程となっている。現状では日本社会の理解の促進に資する授業科目を 400 時間開設している。 また、日本人生徒との交流を図ることができる教育環境にある学科(留学生が占める割合が２分の１の範囲内)についてはこの限りではない。 ②文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっており、外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定を受けている。	①現状でも量は十分であるといえる。質の改定ができないかは継続的に検証する。 今後、他の学科が同様に動けるように、科目を検討しておく必要がある。 ②更なる高みを目指し、教育課程編成委員会などでより多くの意見を得られるようにしていきたい。	日本国内に就職する際に必要となる「日本社会の理解の促進に資する授業科目」をブラッシュアップすることで更なる効果が得られると考える。

2-2　教育課程の実施

自己評定（達成度）
2

参照資料
学生便覧、シラバス、学習カリキュラム、大原学園ホームページ

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1　授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	①各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ②授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ③学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取組んでいるか ④成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正かつ厳格に行っているか ⑤成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	①概ね用いられている。 一部の科目は各業界団体の指導に沿ったカリキュラムや教材で授業を運営している。 ②作成したシラバスはＨＰ上で公開されており、授業開始時にシラバスの説明をしている。 ③履修指導・予習・復習についての相談は担任や授業担当者を窓口として継続的に実施している。 ④⑤成績評価については、大原学園ホームページにて修了認定基準の公開を行い、科目ごとの情報はシラバスで公開を行っている。また、学生便覧を学生に配布し、学生が成績評価のしくみを明示し、適切に運用している。	①各業界団体と連携が取れていることにより最新の情報が反映されている。 常により良い授業形態、方法、教材がないかは検討を続ける。 ②③④⑤ 入学時、進級時、科目開始時などガイダンスを実施し、シラバスや成績評価についての説明を行っている。 学習期間中に理解が薄れている学生も見受けられる点が課題である。学生によりわかりやすく明確化していきたい。	① 今後も継続して実施していく。 ②③④⑤期中にガイダンスを実施して解決を図る。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2　企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 　また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	①職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として必要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ②連携実習等の総授業時間数に占める割合を設定しているか ③連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	①職業実践専門課程の認定課程（学科等）においては、企業等と連携した実習、実技、実験または演習等を実施している。 ②明確な割合を設定できていない。 ③70%程度整備されている。 企業と連携している実習の中には一部企業からの成績評価等についての連携ができていない。	①実習につき、実施されている。方向性は同じではあるが、時間の関係で企業から提案を行ってもらっても、全てを実現できない場合がある。 ②教育の質を一定化するためにも実践力を維持できる割合を検証していきたい。 ③協力機関等からの成績評価について到達目標の共有や、成績評価等の協働率 100%を目指していく。	①教育課程編成委員会にて意見をヒアリングしつつ、更なる教育強化を図りたい。また授業時数の壁については継続的に見直しを図っていきたい。 ②③今後も継続して実施を行っていく。

2-3　単位・卒業認定

自己評定（達成度）
2

参照資料
ディプロマポリシー、学生便覧、大原学園ホームページ

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1　学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	①あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	卒業認定方針に基づき、履修状況、出席状況及び成績評価により適正な卒業認定を行っている。	卒業認定基準が明確であり、学生へ周知されている。	卒業認定方針の周知徹底と適正運用を継続する。

2-4　学修成果目標の達成状況

自己評定（達成度）
2

参照資料

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1　卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力（資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。）の学生の修得状況を把握し、評価していること。	①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力（資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。）の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	実施できている。	検定試験ごとに目標を定め、学習過程で学生の達成状況を把握し継続して高い合格率を保っている。 社会のニーズの変化に合わせ新試験や受験すべき資格の再考を常に意識していきたい。	協会と連絡を密にとり、現代社会で必要な知識と技能が習得できる検定試験を受験していきたい。
2-4-2　学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	①学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ②卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ③卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	①目標を定め達成目標を把握できている。 ②運用できている。 １年次よりのガイダンスや面談が目標策定・達成度把握・卒業後の進路相談等につながっている。 ③概ねできている。 ④概ねできている 就職課が企業様とやり取りをする際には、卒業生の状況等をヒアリングし、教務と連携を取る体制ができている。 教務側では得た情報を元に、教育課程の編成の際の参考にしている。	①② タブレットや専用アプリ、デジタルツールを活用し、タイムリーな情報収集につなげている。 ③④ 就職課が状況のヒアリングをできている企業が一部にとどまっている。	①②　今後も継続して実施していく。 ③④ 卒業後数年間で必要な教育課程、教育方法、学習成果を測っていくシステムの構築が急務と考える。教務側でも企業と連携して、情報のヒアリングに努めていきたい。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	④卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか	また、教育課程を検証する際には教育課程編成委員会での討議された内容が活用されている。さらに、学校の自己点検評価を学校関係者評価委員会で協議することで多角的に学校についての検証を行っている。		

基準３　学生の受入れ、学生支援

3-1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理

自己評定（達成度）
2

参照資料
募集要項、入学案内パンフレット、大原学園ホームページ、学生管理システム資料

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-1-1　入学者の受入方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	①卒業認定方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて学生の受入れ方針を定め、求める学生像や入学者に求める水準等を明確に示しているか ②また、選抜方法及び手続をあらかじめ公表した上で、所定の選抜基準及び体制のもとで適切かつ公正に入学者を選抜しているか	入学者受入方針を定め、募集要項等を通じて公表し、公正な選考を実施している。	選考基準が明確で公平性が確保されている。 一方で、少子化による志願者減少への対応が必要である。	学校の特色や教育成果に関する情報発信の強化に取り組む。
3-1-2 学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。 【注）修学支援新制度機関要件の確認】 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	①入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しているか	入学者受け入れ方針に基づき、適正に管理している。 直近３年度では平均85%程度の定員充足率である。 学科の特性により留学生のみの学科や、留学生在籍比率が50%超となっている学科もある。	定員の状況は内部システムの活用や関係部署との連携により、組織的に管理できている。	学生管理システムのブラッシュアップにより、更なる適正な管理を実現していきたい。

3-2　多様な学生に対する修学支援

自己評定（達成度）
3

参照資料
大原ホームページ、修学支援パンフレット、学生指導表

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-2-1　適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生の修学に関する支援を行っていること。	①障がいのある学生、海外からの留学生等多様な学生に対して必要な配慮、支援を行っているか	実施している。 障がいのある学生の受入は可能な範囲にとどまっている。学生の情報は共有し、サポートできる体制を確保している。 留学生に対しては、共通的に利用する掲示物にフリガナや複数言語を掲示している。	担任だけではなく、組織的に対応を実施している。	外部の指導力講習等を活用して障害のある学生や留学生等多様な学生へのサポート力を向上させていきたい。
3-2-2　特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されていること。 【注)外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	①特に、外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置する専門学校においては、海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されているか	留学生に対して、出席率、資格外活動の把握、学習成績の管理、進路指導につき、担任中心にできている。 また、課外研修やグループ作業など日本人学生と接し、日本語会話力や日本文化理解の強化に努めている。	日本語学校の指導ノウハウを共有できており、関係者は一定知識を有しており、学生指導に十分活かすことができている。 一部クラスで日本人と接する機会が少なくなっているケースがある。	授業を通してクラス交流機会を増加させる施策を検討する。 在籍時の課外研修や卒業前の謝恩会を日本人と合同で実施するなど交流の機会を更に増加させる。
3-2-3学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	①学生が就学を継続するための経済的側面に対する支援体制を整備し、情報の提供及び相談について適切に周知、運用しているか	運用している。 公共の支援制度だけではなく、学園独自の支援体制もある。高等教育の修学支援制度も利用できる体制が整えられている。保護者・学生からの申請に基づき、学費の分割納入、延納などに応じている。	学生や保護者からの相談を京都総務が連携しながら対応に当たっている。 大原ポータルサイトを活用し、制度の周知に努めている。	教務スタッフが制度についての理解をさらに深めるための勉強会を開催し、支援サポートをより強化していきたい。

3-3　学生生活に関する支援

自己評定（達成度）
2

参照資料
健康診断のお知らせ　健康診断結果

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-3-1　カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	①学生生活等に関する相談体制を整備し、相談対応について、十分、学生に対して周知し、機能、活用されているか	カウンセラーの配置は実施されていないが、相談体制の整備はできている。 建物の中に学生相談ブースがあり、周りの目を気にせず相談できる場所がある。担任だけではなく、上司や同僚を含めて学生や保護者の相談に乗ることができる体制を構築している。	相談ブースについては稼働状況を見て、増加の有無の検証が必要である。 専門的なカウンセラーの配置については検討課題の一つである。 学生の価値観や相談内容も多様化しているため、教員の負担が大きくなっていることも事実である。	特に職歴の浅い教員の学生相談のスキルを向上させるため、内部学生指導研修を継続して実施し、経験豊富なベテラン教員との連携体制などを強化していく。 また、行政の支援制度等の利用も検討課題のひとつである。
3-3-2　学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	①定期的な健康診断の実施、結果のフォロー、健康管理に関する啓発活動など、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用しているか	年１回、学校指定の医療機関等に依頼し、法に定められた健康診断を実施している。また、日々の出席確認で、欠席者等を把握し、健康上の理由であれば、状況に合わせて医療機関での診察を勧めている。	特になし。	今後も引き続き必要な体制を維持し続けていく。

3-4　学生の自主的な学習等の促進に対する支援

自己評定（達成度）
2

参照資料
学生指導表

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-4-1　学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	①自主学習等に対する相談対応と学習支援 ②成績不振の学生の状況把握と指導 ③留年及び休学者の状況把握と対応 ④退学希望者の状況把握と対応	①体制が構築されている。自学科にはなく、他学科にある資格取得チャレンジの相談があった場合には、他学科と連携を取ったサポートを実施している。 ②成績不振の学生については必要に応じて無料補講を実施し、学習内容の定着を図っている。 ③総務と教務スタッフが連携し状況把握に努めている。休学者は復帰の意思確認並びに復帰する場合の事前サポートを実施している。 ④早期発見のため、教員の学生指導力向上、事例に基づく指導方法の確認、担当者間の情報共有を実施している。ハラスメントに対しての意識を向上させるため、学園全体でのハラスメント研修を実施している。	①学校に複数分野があるからこそ、横の連携を活用して学生の自主学習をサポートする体制ができている。 ②週に１度、半日ある自主学習補講の時間を活用し、成績不振の学生の知識定着を図っている。 ③休学者は２か月前には復帰の意思確認を実施し、復帰後の授業を想定したサポートを実施している。 ④チームでアプローチできているところは長所である。教員の指導力向上のため、精神疾患や不登校経験者等様々な価値観の学生への対応を継続して学んでいく必要がある。	特に職歴の浅い教員の学生相談のスキルを向上させるため、内部学生指導研修を継続して実施し、経験豊富なベテラン教員との連携体制などを強化していく。

3-4-2　正規の授業時間以外に行われる、課外活動など学生の自主的な活動を充実させるため、適切に支援していること。	①部活動などの実績と支援の実施 ②ボランティア活動の実績と支援の実施	①部活動は運動系・文科系ともにコロナを境に成立しない状況となり、現状は無くしている。 ②学生のボランティアについては、学校周辺にて定期的に地域清掃を実施している。また、行政等からのボランティアの情報は告知を行っている。	①特になし ②ボランティア情報の増加やタイムリーな告知が課題である。	②学生コミュニケーションツールを活用してタイムリーにより多くの情報を告知し、ボランティア意識を高めたい。

基準４　教員・教育実施組織

4-1　教員の配置、募集、採用

自己評定（達成度）
2

参照資料
大原学園ホームページ（教職員求人票、情報提供資料）

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-1-1　教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員について、採用基準等を整備し、適正に配置していること。	①法令上の基準を遵守し、学校の目的を実現し、目標の達成するための教育を十分に実施できるだけの教員を配置しているか	採用基準は整備され、採用計画に基づき、教員は確保できている。	近年、専門性を有する人材の確保（採用活動）が困難になっており、採用活動における課題となっている。	専門性を有する人材の採用が必要であるため、引き続き、様々な採用ルートを模索していく。

4-2　教員の組織編制等

自己評定（達成度）
2

参照資料
大原学園組織図、事業計画書、業務分掌等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-2-1　学校の目的に応じた教育を実施するために、適切な業務分担、責任体制のもとで分野の区分ごとに、教員の組織体制を整備していること。	①当該専門学校の教育活動を進めるための基本的な組織体制を整備しているか ②組織の責任体制、役割分担が規程等において明確で、連携体制が機能しているか ③当該専門学校の目的等を共有し、達成に向けた協働意欲を醸成するために、教職員組織等の円滑な運営と改善向上に向けた取組を行っているか	学園組織図において基本的な組織体制を整備するとともに、各校の事業計画書及び業務文書等でそれぞれの業務分担を明確にしている。また、教育に関する組織的な連携及び情報共有も行っている。	特になし。	学校内及び学校間でより一層連携し、情報共有が円滑に行われ、目的達成が実現できるように、引き続き体制強化を検討する。

4-3　教員の資質の向上

自己評定（達成度）
2

参照資料
学生アンケート、IST 研修レジュメ

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1　学校の授業の内容及び方法の改善を図るための FD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	①教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ②教育の質の向上に向け組織的なファカルティ・ディブロットメント活動に取組んでいるか	定期的に学生アンケートを実施するほか、上司の講義聴講等により専門性、指導力の把握・評価を行っている。	特になし。	今後も教員の資質向上を図るため、企業研修や外部研修への参加、自己啓発素材の提供等をより充実させていく。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 【注）職業実践専門課程】	①職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修(専攻分野の知識等)を組織的に行っているか	企業等と連携した教員研修を実施し、各学科が目指す資格試験の制度や業界ニーズに対応する教育が実践できるよう、教員の資質向上に努めている。	研修内容の変更を進めていくにあたり、目標設定とスキルの可視化も行う。	今後も教員の資質向上のための企業研修や外部研修参加の機会を、より充実させていく。 　また、ホテルや旅行会社での研修についても委員の協力を経て検討していく。
4-3-3　教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 【注）職業実践専門課程】	①職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修(指導力の向上)を組織的に行っているか	企業等と連携した教員研修を実施し、各学科が目指す資格試験の制度や業界ニーズに対応する教育が実践できるよう、教員の資質向上に努めている。	特になし。	今後も教員の資質向上のための企業研修や外部研修参加の機会を、より充実させていく。

基準５　教育環境

5-1　教育環境の整備点検、改善等

自己評定（達成度）
3

参照資料
竣工図、各種法定点検報告書等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
5-1-1　専修学校設置基準及び関連法令に基づき、教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。(補修、更新含む)	①当該専門学校における教育課程を実施するために必要、かつ十分な施設と、学生数、教育内容、教育方法に対応するための設備を整備し、十分活用しているか、 ②施設、設備について適宜点検し、計画的に改修、補修等を適切に行っているか	適宜メンテナンスを行っている。業者等との連絡体制が明確になっており、適切な維持管理体制を整備している。また、時代に即した実習設備への入れ替え等を行っている。	開校 20 年を過ぎたため、備品等の経年劣化にも注視し、教育の質の低下につながらないように尽力したい。	計画的な校舎改修計画、教育設備入れ替えならびに予算の確保を行う。

5-2　安全対策、防災組織

自己評定（達成度）
2

参照資料
防災マニュアル（学校安全計画）、保守・警備契約書、連絡体制書類等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
5-2-1　学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、火災の発生及び大規模災害発生時並びに授業中の安全管理等において、適切に対応しているか	防災マニュアル（学校安全計画）を準備し、職員より各クラスで災害発生時のルール確認を行い、災害に備えている。 また、備蓄品等の整備も行われている。	学園本部主導で防災マニュアル（学校安全計画）の策定に関する研修は実施されている。 災害発生時の学内ルールの確認はできており、備蓄品等の整備も行われている。備蓄品の管理状況はイントラネットを通じて共有されている。学校校舎・設備・周辺状況を考慮した学校安全対応マニュアルについては検討を進める。	行政からの指示等を踏まえ、現状に合わせた防災マニュアルの見直しを適宜行う。 また、教職員を対象とした初動対応訓練等の研修を継続して実施し、対応力の向上を図る必要がある。

基準６　教育活動の基盤と情報の公表

6-1　中期事業計画と財務基盤

自己評定（達成度）
3

参照資料
中期計画書、事業報告書、計算書類等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-1-1　当該専修学校の中期事業計画又は設置法人の中期事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	①当該専門学校の目的を実現するために、実効性のある具体的な中長期的計画が策定されているか ②設置法人が策定している場合は、計画上に当該専門学校における教育等の内容が明確に位置付けられているか ③計画の進捗状況、組織上の役割分担、計画の見直しなど計画の遂行の実効性は十分か	2025 年 4 月 1 日施行（7 年間）の中期計画が策定され、専門学校を含む学校種別に明確な計画（目標）が示されている。 また、事業報告を通じて、進捗状況や課題等も共有されており、必要に応じて見直しを図ることができる体制にある。	特になし。	今後も引き続き、学生・受講生の成長と成功、教職員の成長及び働きがいの向上、並びに学園の健全かつ安定的な経営のそれぞれにおいて、高次元で調和の取れた学校運営を推進する必要がある。
6-1-2　当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。【注）修学支援新制度機関要件の確認】 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	①中期事業計画を実行し、当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか、不十分な場合は改善に向けた計画を策定しているか	十分な財務基盤が確立されている。	18 歳人口については、令和 8 年度以降、緩やかな減少傾向が見込まれており、今後は、少子化の進行に伴う入学対象者の減少への対応が、学園運営上の重要な課題になるものと認識している。	引き続き、社会及び学生ニーズの分析を徹底し、更になる教育サービスの質的向上に取り組む。

6-2　学校運営

自己評定（達成度）
3

参照資料
大原学園組織図、理事会・評議員会議事録、各種研修資料等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-2-1　学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	①当該専門学校の全体の運営について、事務組織体制を整備し、業務分担、責任体制が明確になっているか ②教員と職員による連携体制を確保しているか ③校長による意思決定及び執行管理が適切に行われているか	意思決定システムが確立されており、学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。 また、その内容は全体朝礼およびイントラネットやグループウェアにて速やかに告知するとともに各部署で周知徹底している。	特になし。	運営方針の教育現場への浸透度合いについては、継続的に点検する必要がある。
6-2-2　学校運営に必要な知識・技能等を身に着け、意欲及び資質を向上させるために SD（Staff Development）活動などの取組が行われていること。	①学校運営を適切かつ効果的に行うため、学校の管理運営や教育活動等に関わる教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための組織的に研修の機会を設けるなどの取組みを行っているか	本部及び事業部単位で、教職員に必要とされる研修や自己啓発の機会が継続的に提供されている。また、学校単位でも、企業等と連携し外部講師を招いた講習・研修を積極的に取り入れている。	特になし。	時代や社会的ニーズに応じた適切な研修や自己啓発の機会を設け、引き続き、継続的に実施する。

6-3　社会からの理解と情報の公表

自己評定（達成度）
2

参照資料
大原学園ホームページ等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-3-1　当該専修学校の教育活動、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表し、継続する教育機関、産業界、自治体等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。	①自己点検・評価結果をはじめ、公表が求められている教育情報について適切に公表し、説明責任を果たしているか ②当該専門学校の教育内容等が社会から理解を得られるように、特に産業界等への積極的な取組が行われているか ③教育課程の編成、実施など実践的な職業教育の展開、改善・向上に向け、継続する教育機関（高等学校等）、産業界、自治体等からの意見を積極的に聴取し、活用しているか	法令に従い、大原学園ホームページ等に、教育情報や財務情報等が適切に公表されている。	設置する学校数が非常に多いため、見易さを改善する必要がある。	大原学園ホームページのＴＯＰから、必要な情報に直感的にたどり着けるようにページ構成を検討する。また、検索機能の充実を図る。

2025年度自己点検・評価（大阪ホテル観光＆ブライダルビューティー専門学校）

令和8年7月31日

1. 自己点検・自己評価を7月末までに実施、8月末までに報告書を作成し、9月上旬に以下のHPで公表を行う。
   自己点検・自己評価終了後から公表までの間に公表を求められた場合は、速やかに対応する。
   URL　http://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/

2. 自己点検・自己評価実施概要
   実施時期☒7月
   実施メンバー☒校長・副校長・主任教員・専任教員・非常勤講師・事務職員（アルバイト含む）
   実施手順☒
   ①実施メンバー各自が下記自己点検・自己評価表の各項目の評点・コメントを記入
   ②各自の評点・コメントを共有し、会議で話し合いを行なう
   ③書記者1名が話し合いの結果をまとめ、1～11の大項目について現状と今後の取り組み、
   　来年度の重点目標についての報告文書と、そこで決定した評点を記入した自己評価表を作成する。
   評価点　5.達成している又は定められている　4.ほぼ達成している　3.達成に向け取り組み中　2.取り組みを検討中　1.改善が必要

第１　設置者及びマネージメント

基準１　理念・教育目標

1-1 理念・目的・育成人材像・教育目標が明確に定められているか

	点検小項目	評価点
	1-1-1　学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	5
	1-1-2　理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	4
	1-1-3　理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	5
	1-1-4　教育目標が明確に定められているか	5

1-2 学校の将来構想を抱いているか

	点検小項目	評価点
	1-2-1　学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	4

1-3 理念と教育目標が教職員、学生に周知されているか

	点検小項目	評価点
	1-3-1　理念・目的・育成人材像等は、教職員および学生に周知され、また学外にも広く公表されているか	4

今後の取り組み	本学園は全国に多数の学校を設置しており、全教職員に対して教育理念・目的・育成人材像についての書籍や小冊子を配布し、これらの共有に努めている。外部には教育理念や目的、育成しようとする人材像を入学案内パンフレット等で公表している。教育理念の多言語化への着手が今後の課題である。教育理念の実現のために、日本語学科では実際的なコミュニケーション能力の向上を目指す教育、日本の文化・習慣に精通し日本社会で活躍できる人材を育成する教育を行っている。今後も社会のニーズに沿う日本語教育が展開できる環境整備に注力したい。

基準２　組織

2-1 組織体制

	点検小項目	評価点
	2-1-1　設置代表者及び経営担当は基準要件に適合しているか	5
	2-1-2　事業規模に応じた組織体制になっているか	4
	2-1-3　受入れする学生の言語対応が（エージェント経由含む）可能な組織になっているか	4

2-2 教員組織

	点検小項目	評価点
	2-2-1　校長、主任教員及び教員は基準要件を備えているか	5
	2-2-2　校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限が明確に定められているか	4
	2-2-3　職務分掌と責任が職位に応じて明確にされているか	4

2-3 事務組織

	点検小項目	評価点
	2-3-1　生活指導や入管事務を含む各業務の担当者が特定され、職務内容、責任、権限、承認プロセスが明確に定められているか	5
	2-3-2　各業務の担当者が学生及び教職員に周知されているか	4
	2-3-3　職務分掌と責任が職位に応じて明確にされているか	4

2-4 採用と育成

	点検小項目	評価点
	2-4-1　教職員の採用制度は整備されているか	5
	2-4-2　学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	4
	2-4-3　人事評価制度は整備されているか	5
	2-4-4　昇進昇格制度は整備されているか	5
	2-4-5　賃金制度は整備されているか	5
今後の取り組み	要件を備えた人員が各所に配置され、それぞれの役割が明示されている。今後は余力のある人材配置に努めたい。教職員の賃金設定と評価は本学園の人事制度に基づき行っている。人材育成は、研修やOJTによって立場ごとに多様な業務に取り組めるよう体制を整えている。今後も教職員のスキルが向上し自己成長が実感できるよう研修を充実させる。 非常勤講師との契約は年に1度労使双方で条件を確認し、契約書を取り交わしている。	

基準３　財務

3-1 財務状況

	点検小項目	評価点
	3-1-1　中長期的に学校の財務は安定しているといえるか	5
	3-1-2　予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
	3-1-3　財務について会計監査が適正に行われているか	5
今後の取り組み	財務部および内部監査室で、主要な財務数値は月次・年次の把握分析がなされ、理事会で確認されている。私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査および会計監査を受け、学園運営が法令または寄付行為への遵守性が確保されるように努めている。また、私立学校振興助成法第14条3項による公認会計士による会計監査も受け、財務の適正性を高い次元で確保している。日本語教育機関単体での収支も改善傾向にある。	

基準 4 教育環境

4-1 校地・校舎

	点検小項目	評価点
	4-1-1　教育機関として適切な環境にあるか	5
	4-1-2　安定的に教育活動を継続するための校地校舎が整備されているか	5
	4-1-3　校舎面積は基準に適合しているか	5
	4-1-4　防災に対する体制は整備されているか	5

4-2　施設・設備

	点検小項目	評価点
	4-2-1　教室・その他施設は基準に適合しているか	5
	4-2-2　教室内は十分な照度があり換気がなされているか	5
	4-2-3　すべての教室は、教育上必要な遮音性が確保されているか	4
	4-2-4　授業時間外に自習できるスペースが十分確保されているか	3
	4-2-5　教育、学生数に応じた図書やメディアが整備され、利用できる環境になっているか	4
	4-2-6　視聴覚教材やICT 教育の設備が整備されているか	3
	4-2-7　教職員の執務に必要なスペースは確保されているか	4
	4-2-8　学生数に応じたトイレが設置されているか	5
	4-2-9　法令上必要な設備等が備えられているか	5
	4-2-10　廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状であるか	5
	4-2-11　バリアフリー対策が施されているか	5
	4-2-12　校内の清掃状況は管理が行き届いているか	5

今後の取り組み	日本語教育機関としての必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しており、適切な教材を採用・使用している。すべての教室は、語学教育を行うのに適切な広さ、十分な照明の照度がある。室温は常に適切に保たれ、換気がなされている。有事の際の連絡体制や警備に関する契約も整えられている。自習施設やICTに関する施設設備を充実させ、時代の要請に応えられる教育を展開する体制を整えることが引き続き課題である。

基準 5　安全・危機管理

5-1　健康・衛生

	点検小項目	評価点
	5-1-1　学校指定の医療機関等に依頼し、法に定められた健康診断を実施しているか	5
	5-1-2　学生全員が適切な健康保険に加入しているか	5
	5-1-3　感染症発生時の措置を定めているか	5

5-2 危機管理

	点検小項目	評価点
	5-2-1　危機管理体制が整備されている	5
	5-2-2　火災・地震・台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所を定めているか	5
	5-2-3　気象警報が発令された場合の措置を定めているか	5
	5-2-4　災害等に対する避難訓練を定期的に実施しているか	5
	5-2-5　防災用品が備蓄されているか	5
今後の取り組み	非常時の対応としては、学園共通の連絡ツールである「大原ポータル」を利用し、連絡方法を確認するための訓練を行っている。同ツールの活用方法を周知し、非常時には迅速に学生に情報を供給し、安全確認ができるよう取り組んでいる。防災に関してはマニュアルを準備し、災害時のルールを確認している。教職員による各クラスでの災害発生時のルール確認を実施するとともに、年に一度避難訓練を実施している。防災施設への見学等も行っている。	

基準 6　法令の順守等

6-1　法令の順守

	点検小項目	評価点
	6-1-1　法令、設置基準等の順守と適正な運営がされているか	5
	6-1-2　個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	5
	6-1-3　入管・関係官庁への届け出、報告を遅滞なく行っているか	5
	6-1-4　自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5
	6-1-5　自己点検・自己評価の結果は公開しているか	5
今後の取り組み	各種法令及び通達の情報を担当者が共有し、遵守を徹底している。また、各種の変更等に即時に対応できるよう情報収集に努め、集まった情報は組織内で共有している。従前より情報セキュリティ保守の一環として個人情報保護についての規程を設け、個人情報保護法に基づき対策を実施している。また、教職員に対し法および内部規程の遵守を徹底している。毎年自己点検・自己評価を行い、結果をウェブ上で公開することとしている。出入国在留管理庁に求められる教育成果についてもウェブ上で公開している。	

第２　運営に関する事項

評価点　　5.達成している又は定められている　　4.ほぼ達成している　　3.どちらともいえない　　2.取り組みを検討中　　1.改善が必要

基準７　運営全般

7-1　組織的な運営

	点検小項目	評価点
	7-1-1　短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されているか	5
	7-1-2　管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされているか	5
	7-1-3　意思決定システムは確立されているか	4
	7-1-4　予算編成が適切になされ、執行ルールが明確であるか	5
	7-1-5　業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的、かつ、組織的に行われているか	4
	7-1-6　情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

7-2　納付金

	点検小項目	評価点
	7-2-1　選考料、入学金、授業料及びその他納付金の金額及び納付期日が明示されているか	5
	7-2-2　関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されているか	5

7-3　情報の共有化及び発信

	点検小項目	評価点
	7-3-1　外部の情報を積極的に入手し、生かす仕組みがあるか	4
	7-3-2　内部の情報共有を効率的に行う仕組みがあるか	4
	7-3-3　入学希望者・在籍者及び関係者が理解できる言語で適切に情報提供をおこなっているか	4
今後の取り組み	学園の理念に基づき、経営目標を達成するための事業計画が定められており、それに沿って学校を運営している。理事会・評議員会で決議された内容は、本部長・校長の下で開催される運営会議で伝達・説明され、共有されている。また、意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示し組織運営を行っている。納付金等の情報は多言語化して印刷物やウェブ等で公開されている。学内外の情報の流れのさらなる円滑化と学びの共有を今後の課題としたい。	

基準 8　学生募集

8-1　募集方針

	点検小項目	評価点
	8-1-1　理念・教育目標に沿った学生の受入れ方針を定め、年間募集計画を策定しているか	5
	8-1-2　募集定員の範囲で募集活動を行っているか	5
	8-1-3　募集担当職員は、学校の情報を正しく認識した上で、入学相談を行っているか	4

8-2　募集活動

	点検小項目	
	8-2-1　教育内容・教育成果を含む、最新かつ正確な学校情報が入学希望者の理解できる言語で開示されているか	4
	8-2-2　応募資格及び条件を、入学希望者の理解できる言語で明示しているか	5
	8-2-3　募集活動を行う国・地域の法令を順守した募集活動を行っているか	5
	8-2-4　海外の代理店等に、最新かつ正確な情報提供を行っているか	5
	8-2-5　海外の代理店等の行う募集活動が、適切に行われていることを把握しているか	4

8-3　入学選考

	点検小項目	評価点
	8-3-1　入学選考基準及び方法が明示されているか	5
	8-3-2　学生情報を正確に把握し、提出書類により信憑性の確認を行っているか	5
	8-3-3　入学選考を行う体制が整備されているか	5
	8-3-4　受け入れるコースの教育内容が、志願者の学習ニーズと合致することを確認しているか	5

今後の取り組み	学園の方針に本校の特色を加味した募集活動を行っている。現地説明会やオンライン説明会の実施、提携業者への本校に関する最新情報の提供等を通じて留学希望者が正確な情報を常に入手できるようにしている。学生納付金は他校との比較において低額となっている。

基準 9　教育活動

9-1　教育計画

点検小項目	評価点
9-1-1　理念・教育目標に合致したコース設定が行われているか	5
9-1-2　教育目標達成に向けた教育内容、教育方法及び進度設計がなされているか	4
9-1-3　レベル設定に当たっては、国内でまた国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしているか	4
9-1-4　教育内容及び教育方法について、教員間で共通理解が得られているか	4
9-1-5　カリキュラムは体系的に編成されているか	5
9-1-6　教育目標に合致した教材は選定されているか	4
9-1-7　補助教材、生教材を使用する場合は、出典を明らかにするとともに、著作権法に留意しているか	5
9-1-8　授業に関する学習リソース及び情報を、授業開始までに教員に提示しているか	4
9-1-9　教員配置が適切になされているか	4

9-2　実施

点検小項目	評価点
9-2-1　授業開始までに学生の能力を筆記試験等により判定し、適切なクラス編成を行っているか	5
9-2-2　教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達しているか	5
9-2-3　決定したシラバスによって授業が行われているか	5
9-2-4　修了の要件が定められ、学生の理解できる言語によって明示されているか	4
9-2-5　教育内容に応じて教育用機器を活用しているか	4
9-2-6　授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録しているか	5
9-2-7　理解度・到達度の確認が、適正な時期に行われているか	5

	9-2-8　学生の自己評価を把握しているか	4
	9-2-9　個別学習指導等の学習支援を担当者が適切に指導・支援を行っているか	4
	9-2-10　特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けているか	3
	9-2-11　授業や運営に関する学生からの相談、苦情に担当者が適切に対処しているか	4
	9-2-12　学生が把握しておくべき教育に関する留意点（学習内容、時間割、成績等）を文書で学生に配布しているか	5
	9-2-13　留学生活や入管法上の留意点が分かる文書を学生に配布しているか	4
	9-2-14　JLPT、EJU の指導体制はあるか	4
9-3　成績判定		
	点検小項目	評価点
	9-3-1　判定基準及び判定方法が明確に定められ、開示されているか	5
	9-3-2　成績判定結果を的確に学生に伝えているか	5
	9-3-3　判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証しているか	4
9-4　授業評価		
	点検小項目	評価点
	9-4-1　授業評価を定期的に実施しているか	4
	9-4-2　評価体制、評価方法及び評価基準が適切に定められ実施されているか	4
	9-4-3　学生による授業評価を定期的に実施しているか	4
	9-4-4　評価結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組みに反映されているか	4
今後の取り組み	コミュニケーション能力の習得および日本語能力試験等の各種試験への合格を目標として、体系的な教育課程を編成している。また、学生の能力とニーズに合わせて毎学期カリキュラムの改訂を行っている。学習目的や学生の持つ背景が多様化しているため、それぞれの目的に応じた学習環境が提供できるよう、今後も継続して教育課程についての検証と改善を行う。認定日本語教育機関制度への対応につき書類等の作成に着手した。	

基準 10　学生支援

10-1　支援体制

	点検小項目	評価点
	10-1-1　学生支援体制が整備されているか	4
	10-1-2　休日及び長期休暇中の学生対応はできているか	4

10-2　日本社会を理解し、適応するための支援

	点検小項目	評価点
	10-2-1　入学直後のオリエンテーションを実施しているか	5
	10-2-2　生活に関するオリエンテーションを実施しているか	5
	10-2-3　地域の国際交流や、地域活動に参加しているか	3
	10-2-4　地域社会に貢献する活動は行っているか	4

10-3　生活面における支援

	点検小項目	評価点
	10-3-1　住居支援を行っているか	4
	10-3-2　アルバイトに関する指導及び支援を行っているか	5
	10-3-3　トラブル等の相談体制が整備されているか	4
	10-3-4　定期的に健康診断を実施しているか	5
	10-3-5　学生全体の生活状況について定期的に把握しているか	4
	10-3-6　上記調査結果に対する指導を行っているか	5

10-4　進路に関する支援		
	点検小項目	評価点
	10-4-1　指導体制が有効に機能しているか	4
	10-4-2　学生の進路希望を把握し、指導担当者間で情報が共有されているか	5
	10-4-3　進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にあるか	5
	10-4-4　入学時からの一貫した進路指導を行っているか	4
	10-4-5　EJU、JLPT等の受験指導体制は整っているか	4
	10-4-6　受験時、就職時の面談指導の体制は整っているか	5

10-5　入国・在留関係に関する指導及び支援		
	点検小項目	評価点
	10-5-1　研修受講等により、最新の情報収集が出来る体制がとられているか	4
	10-5-2　入管法上の留意点について、学生への伝達・指導等を定期的に行っているか	5
	10-5-3　在留に関する学生の最新情報を、正確に把握し管理しているか	5
	10-5-4　在留上問題のある学生、及び問題になり得る学生の指導を個別に行っているか	5
	10-5-5　不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組みを、継続的に行っているか	5
	10-5-6　過去 3 年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていないか	5
	10-5-7　除籍、退学、修了、卒業で帰国予定となった学生の帰国確認を適時行い、それら出国確認の書類を適正に管理しているか	5
今後の取り組み	留意すべき点がある学生には担任・生活指導担当教職員が個人面接を行い、学習目標の確認や学習に関する悩み等につき対応する。定期的に全学生と面接を行い、進路や目標を確認し、悩みなどに対応している。各担当者が相互に現状を把握しやすい環境を整え、各教員が各々の支援に携われる体制を構築している。進路指導は担任を通じて行い、学生が希望通りの未来を描けるように指導を行っている。就職課を通じた就職に関する指導も希望者に対して行っている。	

基準 11　教育成果

11-1　成果の判定

	点検小項目	評価点
	11-1-1　進路及び卒業・修了判定が適切に行われているか	5
	11-1-2　EJU、JLPT 等の外部試験結果を把握し、適切に管理されているか	5

11-2　卒業生の状況の把握

	点検小項目	評価点
	11-2-1　卒業生の状況を把握するための取組みを行っているか	4
	11-2-2　卒業後の進路を把握しているか	4
	11-2-3　進学先、就職先等での状況や、卒業生の社会的評価を把握しているか	3

今後の取り組み	卒業生との情報のやり取りのためにはウェブサイトを整備し活用している。卒業生は在校生のための貴重な情報提供元でもあり、本校のよき理解者でもある。卒業生の状況を把握するためのウェブ空間の活用等の新たな取り組みや各種の新しいツールを用いることなどにより、さらに密接な情報のやり取りができる体制を構築したい。

評価責任者：校長　宮路信美　　記載責任者：主任教員　小川あゆみ